

2025年3月期第2四半期（中間期） 決算説明資料

2024年11月14日(木)
株式会社オーバル

目次

- ／ 1. 2025年3月期第2四半期 連結業績
- ／ 2. トピックス
- ／ 3. 参考資料



1. 2025年3月期第2四半期 連結業績

■ 第2四半期実績：売上好調、利益は例年を上回る進捗で進捗

- システム部門の売上高が前年同期比51.6%増とけん引
- 前年同期は、Anton Paar GmbHライセンス契約に伴う一時金の収入があったため、営業利益は前年を下回ったものの、営業利益率は9.7%を維持

■ 受注残高：下半期計上に向けて着実に積み上げ

- 受注残高は、前年同期は下回るものの、システム部門の大口の受注案件があり、6,353百万円と下半期の売上計上に向けて着実に積み上げ

■ 下半期見通し：売上は上半期に引き続き好調に推移する見込み

- システム部門の大口案件が売上計上となり、売上は好調を維持
- 期末配当を1円増配の9円とし、年間配当は中間7円、期末9円の合計16円を予定

- 好調なシステム部門がけん引し、売上高は前年度比2.2%増
- 営業利益は、前年度の契約一時金の収受の特殊要因は無しにもかかわらず、約7億円を確保

(百万円)

	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	対前年増減額	対前年増減率
売上高	6,140	6,976	7,128	+151	+2.2%
売上原価	3,657	3,968	4,168	+200	+5.1%
売上総利益	2,482	3,008	2,959	-49	-1.6%
販管費	2,007	2,210	2,269	+59	+2.7%
営業利益	474	798	689	-108	-13.6%
営業利益率	7.7%	11.4%	9.7%	-	-
経常利益	569	852	624	-228	-26.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	294	550	422	-127	-23.2%

事業部門別受注高・受注残高



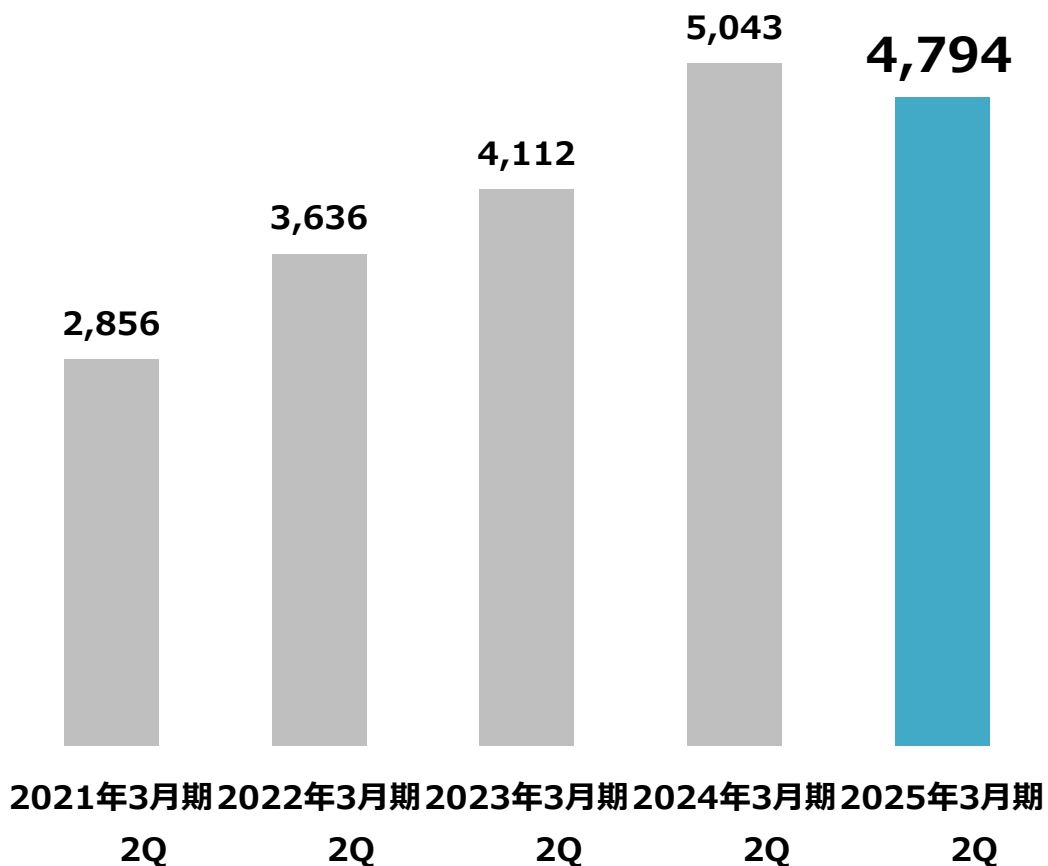
- センサ部門は、国内は半導体関連業界向けの落ち込み、海外は中国・韓国の電気自動車用など電池関連業界向けの一服が影響し、対前年度減
- システム部門は、海外は低迷も、国内は大口案件の受注が好調
- サービス部門は、保全サポートサービスおよび他社製品校正業務受託などの強化で微増

(百万円)

	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	対前年増減額	対前年増減率
受注高	8,774	7,939	-835	-9.5%
センサ部門	6,284	4,578	-1,705	-27.1%
システム部門	1,128	1,858	+730	+64.7%
サービス部門	1,361	1,501	+140	+10.3%
受注残高	6,792	6,353	-438	-6.5%
センサ部門	5,285	4,196	-1,088	-20.6%
システム部門	1,373	2,051	+678	+49.4%
サービス部門	132	104	-28	-21.1%

センサ売上推移

単位：百万円



国内

- 化学関連業界が堅調を維持
- 半導体関連業界向けは前年度受注分を出荷したものの前年度までには至らず

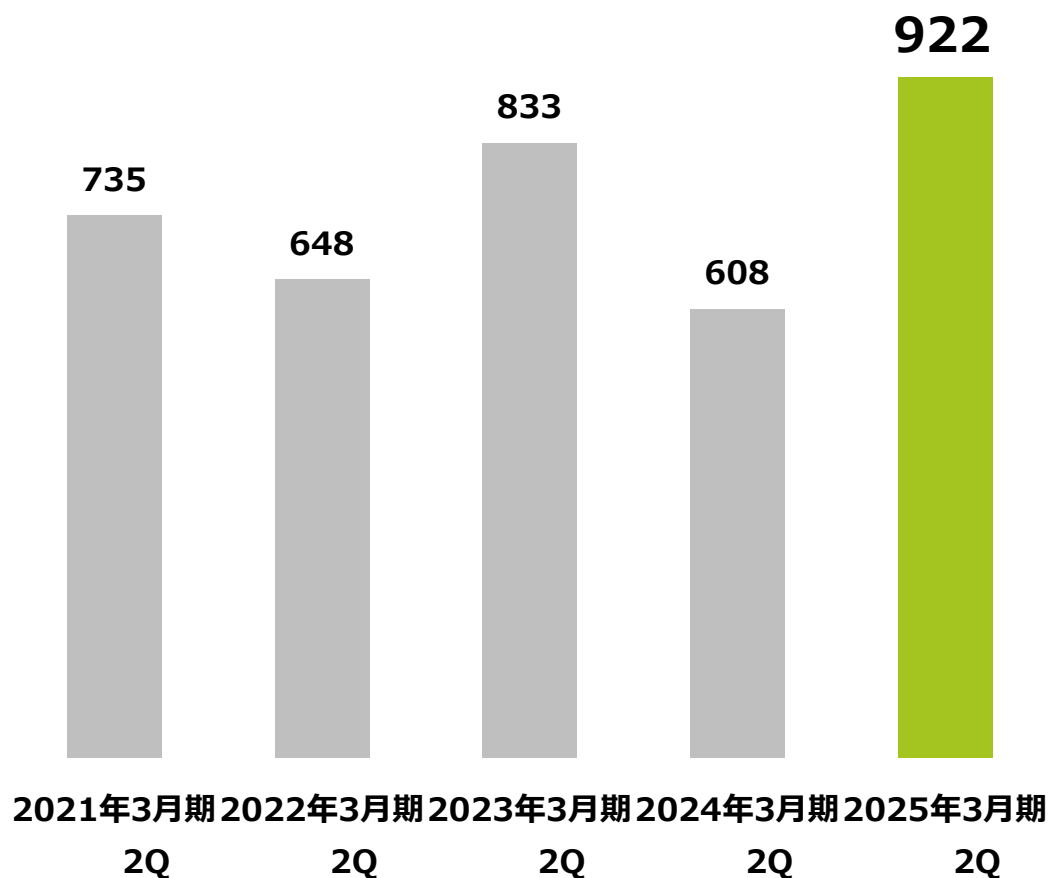
海外

- 中国、韓国電気自動車用などの電池関連業界向けが一服

前期比 ▲4.9%

システム売上推移

単位：百万円



国内

- 国立研究開発法人産業技術総合研究所、食品関連業界向けの大口案件の売上計上があり、前年度を大きく上回り、全体の売上増をけん引

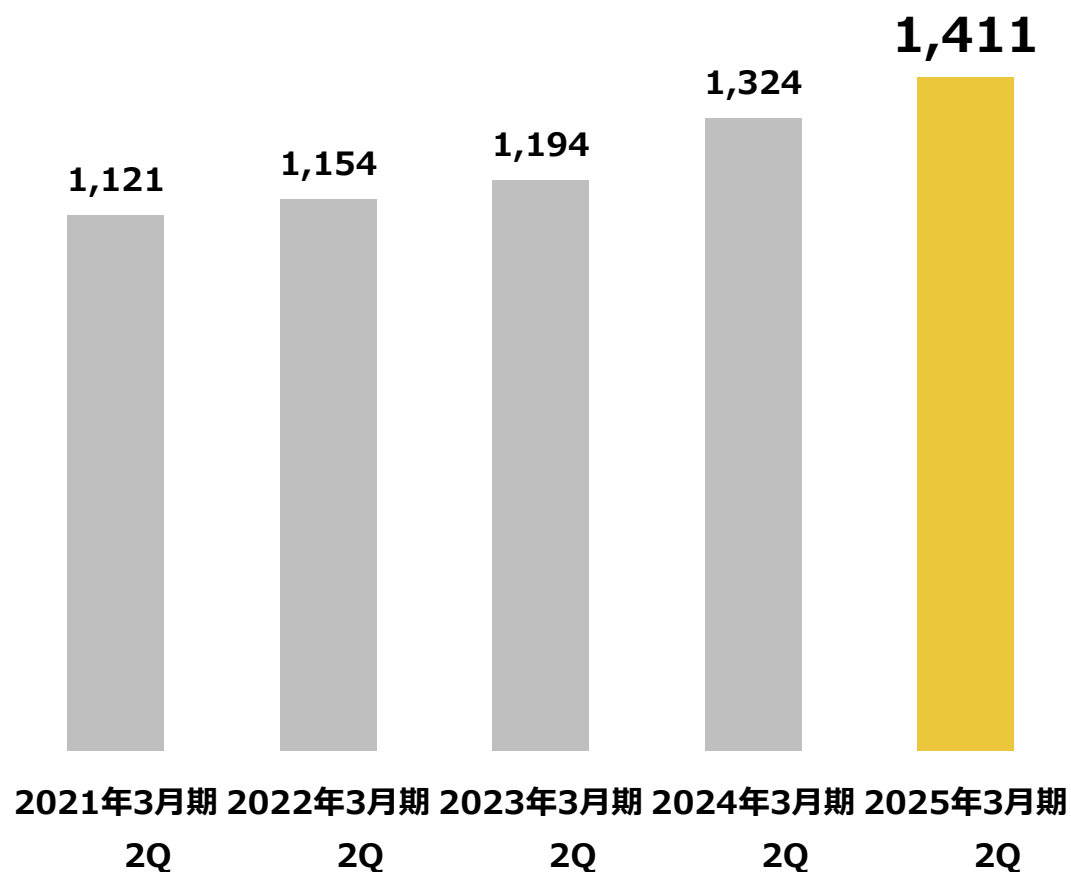
海外

- 東南アジア地域における落ち込みが底打ちとなっているが、回復は限定的

前期比 **+51.6%**

サービス売上推移

単位：百万円



- ・ 石油関連の業界再編や脱炭素社会に向けた動きにより、厳しい市場環境が継続
- ・ 保全サポートサービスや他社製品のメンテナンス事業や校正事業を強化

前期比 **+6.5%**

出荷元の国別売上高



(百万円)

	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	対前年増減率
日本	5,410	5,535	+2.3%
海外	1,565	1,592	+1.7%
中国	421	434	+3.2%
台湾	110	121	+10.0%
韓国	576	555	-3.6%
シンガポール	297	297	-0.2%
マレーシア	79	101	27.2%
アメリカ	80	81	2.1%
合計	6,976	7,128	2.2%

主な増減要因

国内

■ センサ部門

化学関連業界向けが堅調を維持

■ システム部門

産総研、食品関連業界向けの大口案件が全体の売上増をけん引

海外

■ センサ部門

中国・韓国の子会社における電池関連業界向けが足元で一服

連結貸借対照表



(百万円)

	2024年3月末	2024年9月末	前期末比
流動資産	12,634	12,666	+31
固定資産	10,816	10,920	+103
資産合計	23,451	23,586	+135
流動負債	4,315	3,910	-405
固定負債	3,771	3,778	+7
負債合計	8,086	7,688	-397
純資産	15,364	15,897	+533
負債・純資産合計	23,451	23,586	+135

主な増減要因

流動資産

受取手形、売掛金及び
契約資産 +422

固定資産

機械装置及び運搬具
+143

流動負債

未払金 -312

固定負債

長期借入金 +7

純資産

利益剰余金 +265

2025年3月期 通期連結業績予想



■ 通期業績予想の変更は無し

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	前期末比	増減率
売上高	14,347	14,000	-347	-2.4%
営業利益	1,475	1,300	-175	-11.9%
経常利益	1,572	1,400	-172	-11.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,102	880	-222	-20.2%

売上収益見通し

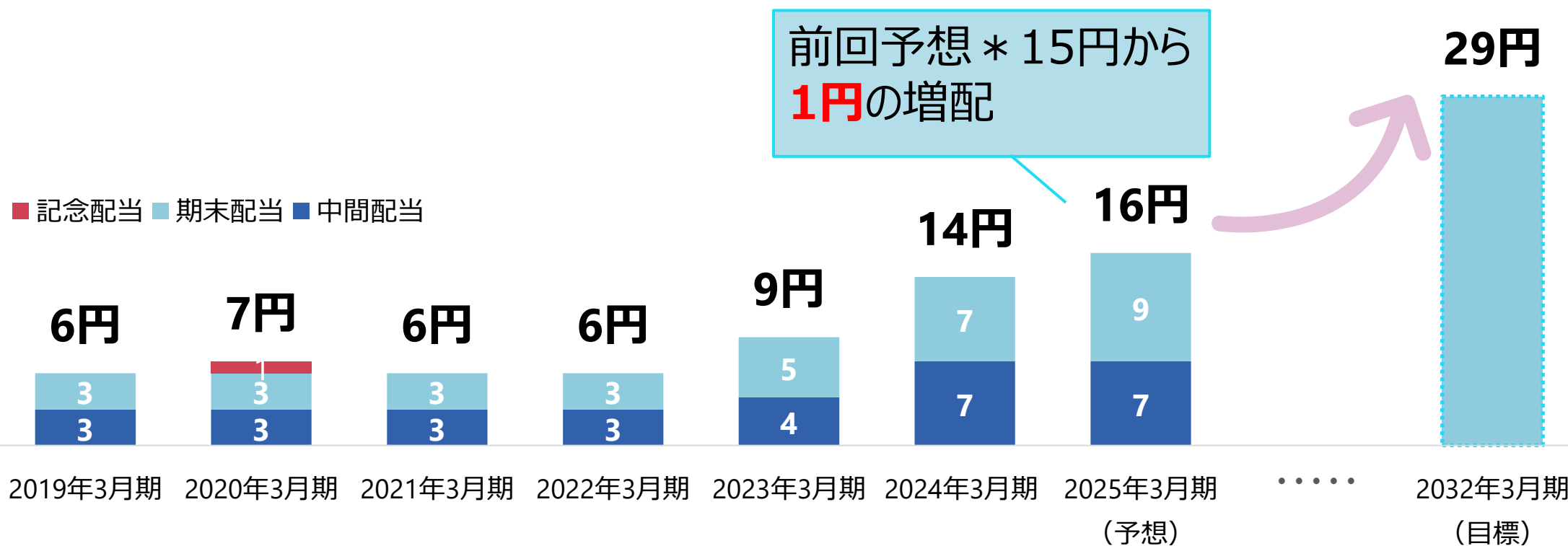
前期好調だった国内半導体業界向けの受注減や、中国・韓国の電気自動車用の電池関連業界向けが一服することにより微減

利益見通し

利益率が高い国内半導体業界向けの受注減や材料比率の上昇による利益率の低下は見込まれるが、通期予想は据え置き

配当基本方針

最も重視すべき株主の皆様への利益還元であると認識し、会社の経営基盤の確保と将来の事業展開に備えた財務体質の充実を総合的に勘案し決定する



配当
性向

28.4%	55.5%	46.5%	47.0%	31.1%	28.5%	40.7%
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

* 2024年5月15日 公表

具体的な取り組みにつきましては2026年3月期を初年度とする次期中期経営計画にて公表する予定としております。

現状 認識

ROEは改善、PBRは1倍以下で推移

- 直近ROE7.7%は、当社が認識している株主資本コストの水準に到達
- 利益率は改善傾向である一方、財務レバレッジは低下傾向
- 資産回転率と工場稼働率は要改善
- 成長戦略を十分に発信できておらず、投資判断に資する情報開示が不足

方向性

ROE10%、PBR1倍以上の早期達成

- 「アジア市場」と「水素・アンモニア関連事業」の拡大と経営資源の集中投下
- 既成技術を活用した新製品開発
- 生産性の向上およびキャッシュフローの改善、株主への利益還元の更なる拡充
- 非財務情報を含めた投資判断に資する情報開示の充実

ROE：自己資本利益率、PBR：株価純資産倍率



2. トピックス

トピックス① 新製品 液体用電池駆動式クランプオン形超音波流量計「UC-1」



東京計器株式会社と共同研究、電池駆動で完全工事不要の流量計「UC-1」をリリース

お客様の声を反映した 4つの「不要」

① 配管工事不要

さらに 1 機種で 25～100A までの
8 口径を計測可能

② 配線工事不要

無線出力タイプは、計測した流量
情報を無線で送信することが可能

③ 外部電源不要

④ 取付工具不要



 GOOD DESIGN AWARD
2024 年度受賞

クランプオン式超音波流量計 UC-1



展示会 (INTERMEASURE2024) 出展
2024/9/18～9/20

トピックス② 国立研究開発法人産業技術総合研究所より大口受注



国立研究開発法人 産業技術総合研究所より、「気体中流量校正設備改修」、「超音波流量計」および「北事業所流体輸送実験施設改修工事」を受注

○ 気体中流量校正設備改修

気体用流量計の校正をはじめとして、産学官連携に資する流量計の特性評価、臨界ノズルの特性に関する研究開発などに活用される設備の大型装置の更新や、システム全般の連携調整、改修作業を実施

○ 超音波流量計・北事業所流体輸送実験施設改修工事

計量標準の開発・供給拠点の高度化及び強靱化事業の一環として、流体輸送実験施設の改修を担う

液体用マルチパス超音波流量計Psonic-L4

- 純国産で高い信頼性
- 4本の測定線（4パス）により、実流校正を行い、高精度を実現
→取引用途で必須となるトレーサビリティを確保
- 平行パス（測線）の採用による長期安定性と冗長性



エネルギーや産業を支える国家計量標準の維持と供給に貢献してまいります。

トピックス③ 水素実ガス校正設備 開設決定



大流量の水素ガス流量計校正設備 『OVAL H2 Lab』（仮称） 開設決定

水素実ガス校正設備

OVAL H₂ Lab

校正能力：Max. 600m³/h(normal) [10,000L/min(normal)]

圧力：Max. 0.98MPa

●本仕様は構想段階であるため変更となる場合があります。



株式会社 オーバル

- 脱炭素・カーボンニュートラルの実現に向け、水素計測用流量計のクオリティを向上
- 完成後は自社製品の校正に加え、他社製品の校正にも対応予定
- 2025年度に運用開始予定

トピックス④ 海外子会社工場建設

アジアNo.1のセンシング・ソリューション・カンパニーを目指し、設備投資を実施



中国子会社（合肥オーバル有限公司）
第3工場建設



完成イメージ図（2025年末頃 完成予定）



韓国子会社（Oval Engineering）
新工場建設・移転、校正設備



トピックス⑤ 健康優良企業（金の認定）を取得

従業員が安全で安心して働ける職場づくりを推進し、金の認定を取得



具体的な取り組み内容



- 定期健康診断の受診率 100%
- 心身の健康への気づきを目的とした研修の紹介・実施
- 毎朝の体操
- 運動不足解消のためのウォーキング大会
- 過重労働の防止や働き方改革

従業員の健康意識の醸成と健康づくり環境の整備し、従業員が健康的で安心して、生き生きと働き続けることができる職場環境作りに向けて、より一層取り組みを進めてまいります



3. 參考資料

会 社 名 株式会社オーバル

創 立 1949年5月10日

資 本 金 22億円（スタンダード市場上場）

連結子会社 11社（国内4社、海外7社）

従業員数 698名



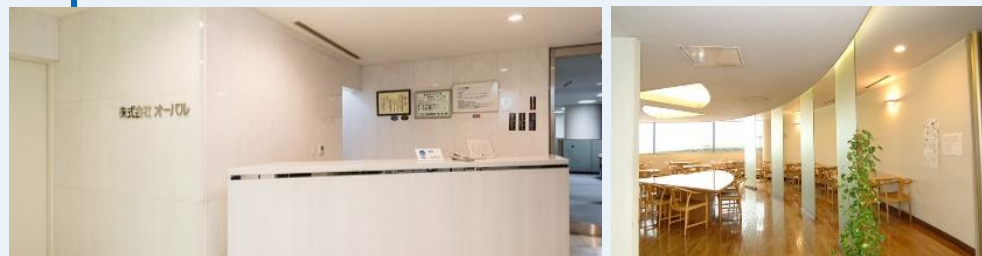
本社
東京都新宿区



創業者
加島 淳

沿革 history

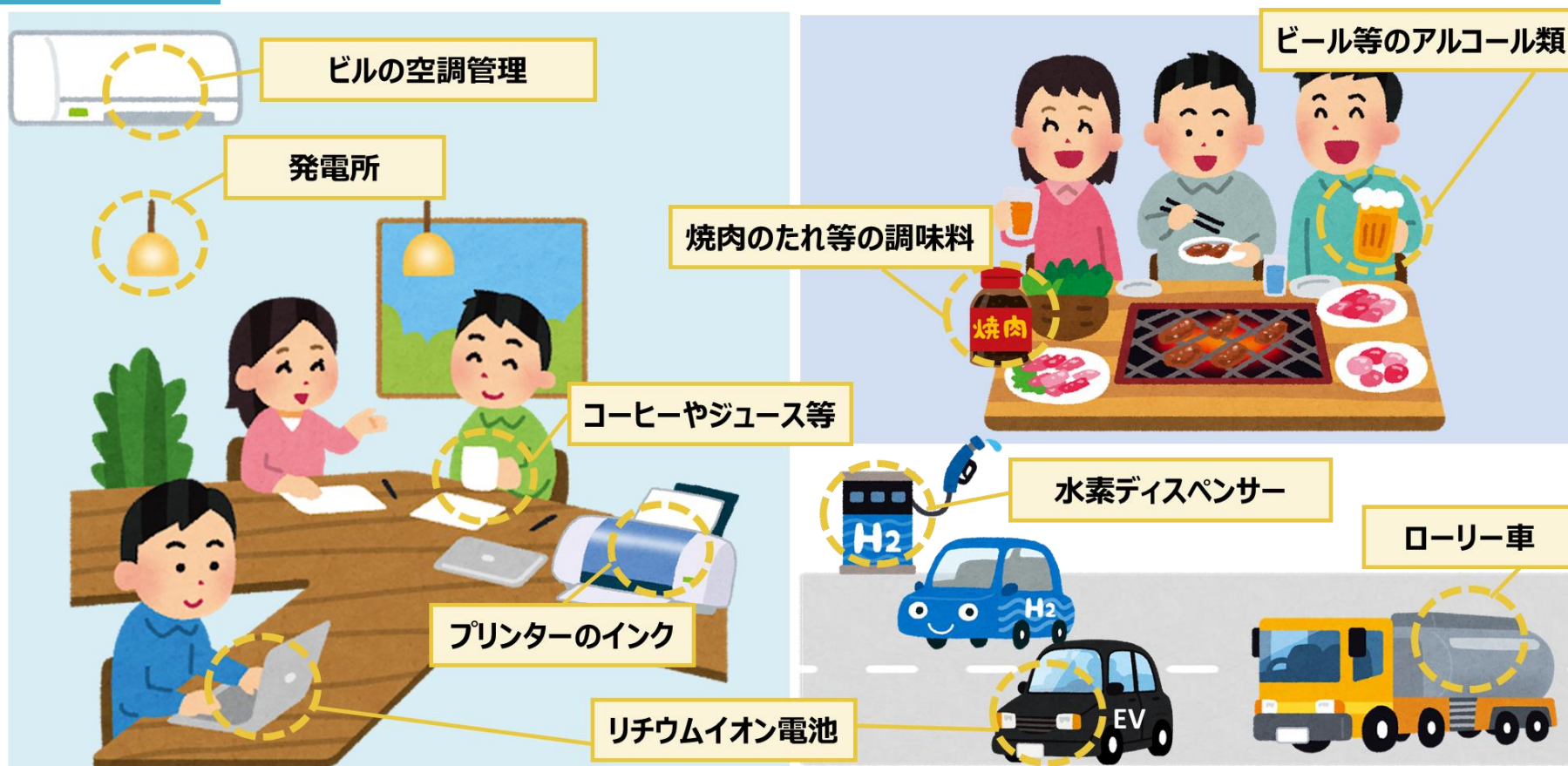
- 1949 オーバル機器工業(株) 創業
- 1961 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1992 社名を(株)オーバルに変更
- 2014 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 2019 創立70周年を迎える
- 2022 中期経営計画「Imagination2025」公表
- 2023 東京証券取引所スタンダード市場を選択



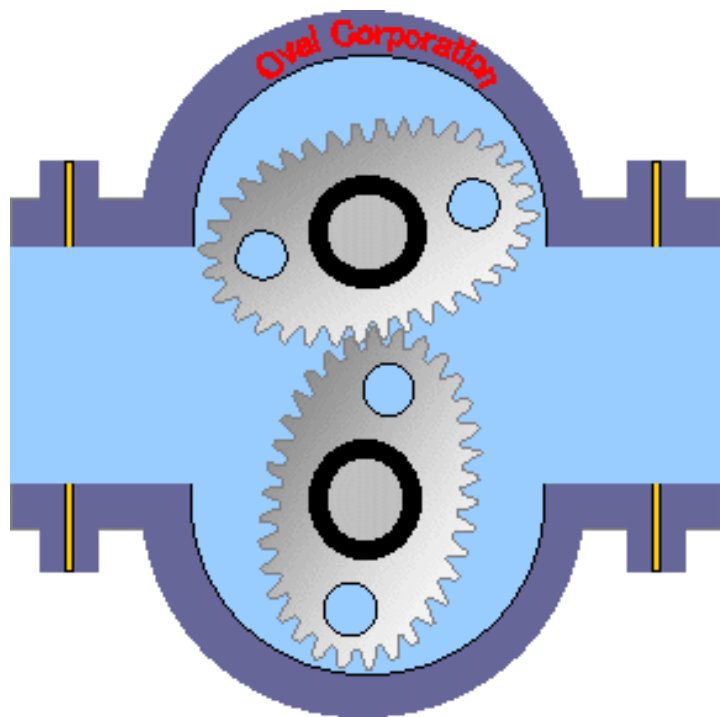
オーバルとは何の会社？

オーバルは、“流れるもの”を計測する“流量計”をはじめ、その他システムソリューションなど、“流体”に関するビジネスを1949年の創業以来70年以上行ってきた企業です。私たちの暮らしはとても便利になり、製造業においても、生産設備のAI化やIoT化が進んでまいりました。モノづくりの自動化には、流量計などのセンサが不可欠です。オーバルは産業を支えるマザーツールのメーカーとして長年培ってきた技術を社会に提供しています。

流量計を使って
作られているもの・サービス



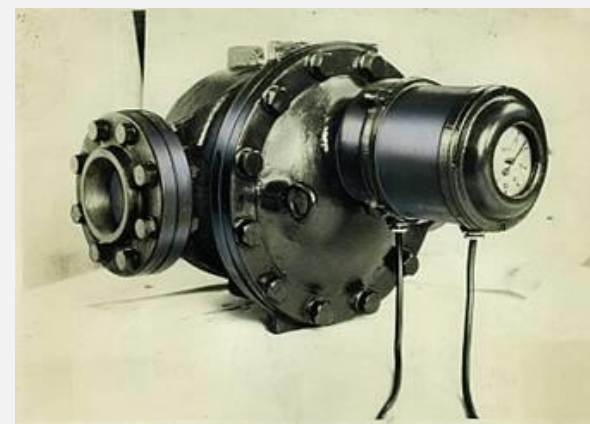
内部 構造



現在のオーバル流量計（ULTRA OVAL TypeS）



初期のオーバル流量計



国内

- 営業所 : 18か所
- サービス : 6か所



山梨オーバル



オーバル新宿本社

京浜計測

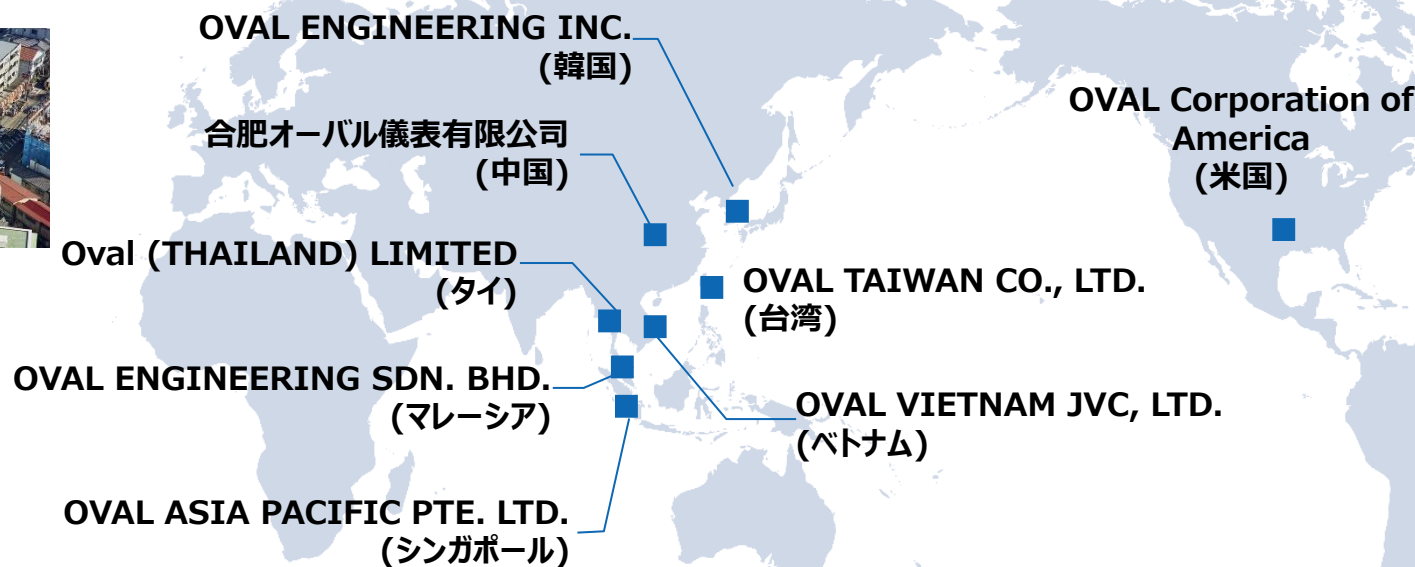
オーバル横浜事業所

宮崎オーバル



海外

- 拠点 : 8か所



経営理念

**確かな計測技術で、新たな価値を創造し
豊かな社会の実現に貢献します**

中長期経営ビジョン

**アジアNo.1の
センシング・ソリューション・カンパニーへ**

※アジアNo.1＝アジアに本社（資本）が所在する企業のNo.1

サービス事業

製品のフィールド対応、修理、
メンテナンスおよび校正事業(JCSS含む)

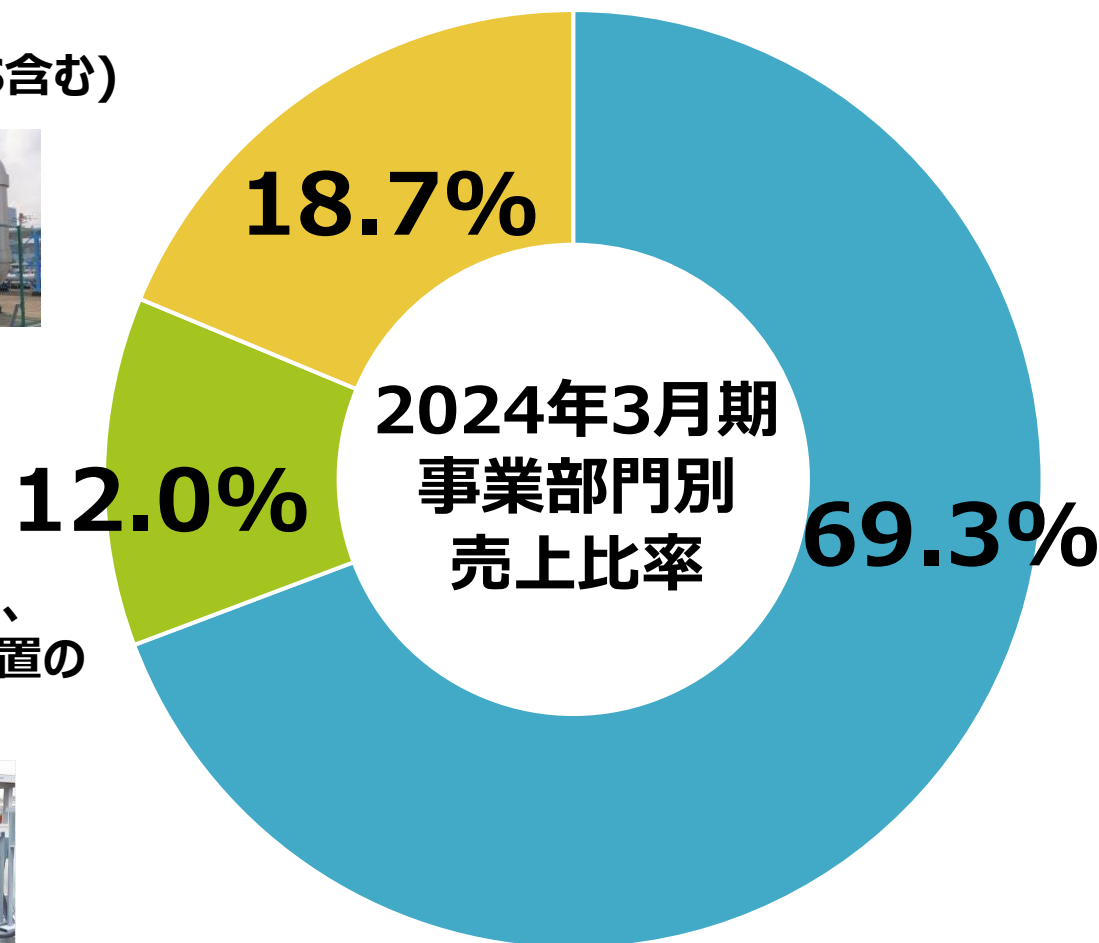


システム事業

流体計測制御に関連する製造、
出荷、検査、分析等のシステム装置の
設計、開発、販売・施工



売上高
14,347百万円



センサ事業

流量計をはじめとする計量計測
機器および関連機器の製造販売



流量計の幅広いラインアップ

流れに価値を加えます

流量計

容積
流量計



超音波
流量計



コリオリ
流量計



熱式質量
流量計



渦
流量計



タービン
流量計



電子
計器



その他
周辺機器



電子計器
補器

さまざまな「はかる」を組み合わせる制御装置を提供

受入出荷システム



検定システム



充実した国内ネットワークを活用したメンテナンスと高い精度を誇る校正技術

現地での修理・メンテナンス



移動検定車



PARTNERSHIP



**SPORTS
FOR SDGs**

金沢警察署
一日署長就任
(2024年9月21日)



クロスカントリースキーヤー 宮崎日香里選手

直近の受賞歴

- 2023年 特別国民体育大会スキー競技会 インターバル、クラシカル、リレー 優勝
特別国民体育大会スキー競技会 インターバル、クラシカル 2位
- 2022年 全日本選手権 マススタート、クラシカル 優勝
- 2020年 とやま・なんと国体 女子リレー 優勝

本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。